令和７年度
島根県立美術館
年次報告書
2025.4–2026.3

目次

基本的運営方針 1
総合報告 4
運営の状況に関する評価 9
中期重点目標（令和9〜13年度） 11
令和７年度　実績 12
　収集 13
　展示 15
　貸出 18
　図録・研究紀要 20
　教育普及 22
　北斎プロジェクト 27
　利用状況 30

基本的運営方針

はじめに

八雲立つ天空の彩り、風光の移ろいを刻々と映しだす宍道湖 ――この水都松江のシンボルをのぞむ好地に、平成 11 年、島根県立美術館は開館しました。

前身となる県立博物館の美術コレクションを継承し、加えて新たなコンセプトによる作品収集を継続しつつ、さまざまな展覧会や教育普及事業の開催を通じ、「水と調和する美術館」「夕日につつまれる美術館」として、二十数年にわたり県内外の皆様から親しまれてきました。

このたび博物館法の改正を受け、あらためて美術館の目指すべきありかたを定めるにあたり、島根県における文化芸術の振興拠点の一つとして、地域の美術活動の顕彰と継承を主たる役割と位置づけ、収集保管・展示・調査研究・教育普及の美術館活動を通じて社会に貢献することを自らの使命と心得ます。

そして広く県民が美術に親しむ上質な機会を提供することはもちろんのこと、特に次代の主役となる島根の子どもたちにとって、芸術に触れる喜びやこの地に生きる誇りを育む場所となるよう、活動の充実を目指します。豊かな心に満ちた未来への架け橋となるべく、いっそうの精進をもって美術館活動に励みます。

また、これらの活動の成果を活用するとともに、市町村、学校、社会教育施設等の関係機関や民間団体と相互に連携・協力し、地域における教育、学術及び文化の振興、文化観光その他の活動の推進を図り、地域の活力の向上に寄与するよう努めます。

Ⅰ　設置目的

美術その他の芸術文化に関する知識及び教養の向上を図り、県民文化の振興に寄与するため、島根県立美術館を松江市に設置する。（島根県立美術館条例第２条）

Ⅱ　基本的性格

１．県民に開かれた美術館
２．芸術活動を育成する美術館
３．水と調和する美術館

Ⅲ　基本事業

１．収集

（１）収集方針

絵画、彫刻、工芸、写真等、各分野の優れた作品を収集する。

特に次の領域に重点をおいて特色あるコレクションの形成に努める。

①「水」を画題とする絵画

本県の地理的、歴史的な背景や宍道湖に面した立地の特色を活かし、本県にふさわしく、また、県民に広く受け入れられるよう「水」を画題とした絵画作品を収集する。

②日本の版画

永田生慈北斎コレクション、新庄二郎浮世絵コレクションを中核に、江戸時代から近現代まで日本の版画の流れが概観できるよう版画コレクションを体系化する。

将来的には、浮世絵などの日本版画が影響を与えた美術品の収集にも努める。

③国内外の写真

国内外の写真の流れを展望できる作品を収集するとともに、山陰の豊かな写真文化の参照点となる作品を収集する。

④木を素材とした彫刻

本県からは木彫出身の作家を多く輩出していることから、「木」を素材とした彫刻作品を収集する。

⑤島根の美術

本県における美術の歴史と伝統を踏まえた美術館とするため、本県出身、本県ゆかりの作家の優れた作品を収集する。

また、本県出身者等が影響を受けた作家、影響を与えた作家の作品も収集する。

（２）収集方法

収集対象となりうる美術品等の所在調査･作品調査を継続的に実施するなかから、候補作品を選定、提案し、美術品等収集審査会の審議を経て、購入または寄贈により収集する。

２．保管

（１）美術品等の保管

美術品等を将来にわたって良好な状態で保管するため、展示室及び収蔵庫は耐火･耐震構造とし、作品の素材等に応じた温湿度管理を行う。また光による褪色や虫菌害から作品を守り、盗難防止にも万全を期す。

（２）美術品等の修復

収蔵品は、常に良好な状態で展示･鑑賞できるよう適切に修復を行う。

３．展示

（１）コレクション展

館蔵品及び寄託品により分野ごとに展示する。作品の素材･技法等の特性に応じて計画的に展示替えを行う。

①展示室１

「水」を画題とした絵画を展示する〈水辺の展示室〉。

島根出身及びゆかりの作家の日本画・洋画等を中心に展示する。

②展示室２

北斎コレクションを中心に、浮世絵等を展示する〈北斎展示室〉。

③展示室３

島根の工芸等を展示する。

④展示室４

国内外の写真等を展示する。

⑤展示室５

木を素材とする彫刻等を展示する。また小企画による展示を行う。

（２）企画展

広く県民が国内外の優れた美術作品を鑑賞できるよう、主体的な調査研究にもとづく自主企画展、または他館や関係機関との共同企画･共同開催による企画展を行う。

４．調査研究

調査研究は、収集保管、展示、教育普及など、すべての美術館活動の基本となるものと位置づける。特に島根の美術をはじめ、収蔵作品とその分野に関することを主たる対象として優先的に取り組む。加えて美術館活動に必要な調査研究についても幅広く取り組むこととする。

調査研究の成果は、展示や図録、研究紀要、講座やギャラリートークなどを通じて積極的に公表するよう努める。

５．教育普及

（１）展示関連

企画展やコレクション展にあわせて、講演会、講座、ギャラリートーク、ワークショップ等の教育普及事業を行う。また子どもにとっても親しみやすい鑑賞ガイド等を作成し、頒布する。

（２）子ども･家族向け

小さな子ども連れでも気兼ねなく美術館を楽しんでいただけるよう企画に取り組む。

（３）連携事業

島根大学をはじめ地域の学術･教育･文化施設等と連携して美術に関するワークショップ等を行う。

（４）美術情報の提供

美術に関する図録、館報、所蔵品目録等を作成するとともに、これらを可能な限りインターネット等で広く閲覧に供し、頒布する。

６．北斎プロジェクト（浮世絵コレクション活用事業）

当館の所蔵する葛飾北斎を中心とした浮世絵コレクションを活用し、美術館の魅力向上に繋げる。

７．芸術活動の支援･育成

県民の芸術活動を支援･育成するため、ギャラリーとホールを一般の利用に供する。ギャラリーは主として美術に関する作品の発表･鑑賞の場、ホールは主として美術に関する催事を通して芸術文化を享受する場とする（指定管理業務）。

総合報告

はじめに

令和４年４月「博物館法の一部を改正する法律」が成立し、およそ 70 年ぶりに博物館法が改正されました。この間、博物館をとりまく状況が大きく変化し、その求められる役割が多様化・高度化したことが背景にあります。当館は、従来の博物館法のもと博物館として登録されていますが、このたびの法改正を受けて新たな登録基準により再登録に向けて申請する必要が生じました。そのため改正法に沿った要件を満たせるよう、これまで明確には定められていなかった基本方針や運営評価の仕組みづくりなどを目指し、数年にわたり準備を進めてまいりました。主には次の３つの事柄が挙げられます。

①基本的運営方針（博物館法施行規則第 19 条関係）
②博物館資料の収集管理方針（博物館法施行規則第 19 条関係）
③運営の評価と改善の仕組み（博物館法第９条関係）

こうした流れにともない、美術館としての運営状況の報告の仕方もこのたび大きく見直すことと致しました。今後は年度ごとに年次報告書を作成し、広く公表していくこととしております。この報告はその一環をなすものとして主要なものとなります。

そして以下、令和 7 年度の運営に関する総合報告に移りますが、当該年度の運営を振り返るにあたりまして、まずもって触れなければならないのは、当年 9 月に生じた設備不良による臨時休館のことです。まだ暑い盛りでしたが、空調設備に不具合が生じ、とくに湿度の制御に必要な能力が充分に発揮できなくなってしまいました。このため美術作品の保護を優先し、やむを得ず臨時休館とする判断を致しました。こうした対応によって、収蔵する美術作品は無事に保全することができましたが、当美術館への来訪を予定してくださっていた皆様、ギャラリーやホールでの催しを準備されていた皆様、また関係各所の皆様など、多くの方々に多大なご迷惑をおかけすることとなりました。あらためて心よりお詫び申し上げますとともに、今後このような事態が生じないよう施設の保守に万全の対策を尽くしてまいります。

収集保管

美術館事業の根幹をなす作品収集については、平成 21 年度以降、購入による作品収集が長らく途絶えていました。県の財政状況から美術品取得基金を取り崩す運用が続き、これにより基金の現金残額が僅少となっていたからです。ようやく近年になって、年度ごとの収入予算を上まわる実績額の 2 分の 1 を基金現金に積み戻す制度が認められ、わずかずつですが作品購入の余地が生まれてきました。

今年度は津和野藩の絵師、三浦紫畹《牡丹に孔雀図》と大島松渓《花鳥図》の 2 件を購入により収集することができました。いずれも六曲一隻の屏風作品で、長らく現所蔵者から寄託を受けて、当館コレクション展にて活用させていただいていたものです。三浦紫畹は孔雀図の名手として知られ、本作においても緻密な描写と鮮麗な色彩で雌雄の孔雀が描き込まれています。大島松渓《花鳥図》は一種奇矯な画風を示す松渓ならではの作品で、現存作品の少ない松渓の屏風作品として、また落款から制作年が明らかな作例としてたいへん貴重なものです。

本年度は他にも多くの美術作品の寄贈がありました。まず近世絵画の部門では当地近世画壇の代表的絵師・堀江友聲《龍図》を受け入れています。落款と作風から友聲壮年期の制作と見られる龍図の佳作です。日本画の部門では島根出身の日本画家・竹田霞村《雪梅鶺鴒図屏風》、木村棲雲《青緑山水図屏風》《秋景山水図屏風》に加え、前年開催の企画展「落合朗風」に関連し、早世した朗風の告別式の祭壇に掲げられた中山蕃《落合朗風追悼書》の寄贈を受けることができました。洋画の部門では島根出身・ゆかりの作家である石橋和訓、木村義男、小泉清、大国章夫の作品を受贈しました。なかでも石橋和訓《アメリカ、ソルトレーク東岸》は肖像画家として活躍した石橋にとって類例の少ない風景を描いた油彩作品です。本年度開催の企画展「石橋和訓展」でも展示いたしました。工芸部門では長岡空味《楽山焼 刷毛目茶碗》の寄贈を受けました。松江藩の御用窯楽山焼の九代長岡空味は明治から昭和にかけて活躍しました。本作は高麗の刷毛目茶碗を模した作行で萩焼を祖とする楽山焼ならではの作品です。また河井寛次郎や柳宗悦とともに民藝運動を推進し、島根にもたびたび来県した濱田庄司の代表的な図案である唐黍紋を付した湯呑《鉄絵湯呑》を受け入れています。彫刻の部門では加藤景雲《鯉大小游泳》を受贈しました。加藤景雲は島根県安来市出身の彫刻家で、同郷の米原雲海の勧めで上京し、高村光雲に師事しました。鯉をかたどる本作は景雲の好んだモチーフであり、昭和 18（1943）年春に制作された、絶作と認められる重要な作例です。なお今年度収集したすべての作品を 13 頁に掲載しています。

また本年度は令和３年度に寄贈を受けた油彩・伝石橋和訓《静物》の修復及び額縁の新調を行いました。本作品については修復後、企画展「石橋和訓展」において展示公開いたしました。

展示

コレクション展では分野別の展示室 1～5 のそれぞれにおいて作品保護のため適宜、展示替えをしながら当館の収蔵作品をご覧いただいています。本年度は通常の展示に加え、いくつかの特集展示も行いました。展示室 2「北斎博覧会　珍品・逸品大集合‼」では、大阪・関西万博（Expo2025）の開幕を記念し、55 年前の大阪万博に出品された「赤富士」をはじめとする当館自慢の“逸品”、現存数が少ない“稀覯品”、世界でもここでしか見られない“珍品”の数々を紹介する機会としました。展示室 1「小泉清　小泉八雲とセツの三男として生まれて」では、この年放送された NHK 連続テレビ小説「ばけばけ」にちなみ、小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）とその妻で松江出身のセツ、このふたりの三男として生まれ、類まれな色彩感覚をそなえた画家として多くの人々を引き付けてきた小泉清を特集し、館蔵の作品全 23 点と、これに加えて特別に借用した作品４点を展示しました。展示室 3「島根の工芸　石見長浜焼・長浜人形」では、島根県浜田市で江戸時代以来の歴史をもつ陶窯・長浜焼をとりあげ、かつて石見地方の特色ある産品として知られた、その豊かな造形世界を紹介する機会としました。本展は浜田市の個人コレクションを中心に展示いたしました。

企画展示室では季節ごとの企画展に加え、年末恒例の日本伝統工芸展を開催しました。春の企画展「柚木沙弥郎　永遠のいま」では、この前年、惜しまれつつも 101 歳の生涯を閉じた、東京出身の染色家・柚木沙弥郎の 75 年にわたる創作活動の全貌を紹介。代表的な染色作品に加え、版画やコラージュ、絵本や立体作品など約 300 点もの多彩な作品を展示し、柚木の豊かな表現世界を広く伝える機会となりました。島根の陶芸家・舩木研兒との交流を紹介する特別展示により、作家と島根とを結ぶ縁にも触れることができました。会場構成では、布作品を空間の

中央に吊るして展示することで、鑑賞者が作品のあいだをめぐりながら観覧し、色彩や模様の展開、生地の質感や染まり具合、空気の流れに応じて揺らぐ様子など、空間全体で作品の魅力を体感することができるよう工夫しました。また柚木が手がけた絵本作品を自由に手にとって読むことのできるコーナーを設け、幅広い世代が思い思いに絵本を楽しめる場となりました。

夏の企画展「川端龍子展」では、大正期から昭和期にかけて活躍した日本画家・川端龍子をとりあげ、誕生 140 周年の節目にその画業を紹介する機会といたしました。大田区立龍子記念館の所蔵品を中心に、大田区立郷土博物館や和歌山市立博物館等が所蔵する龍子の代表作を加え、大規模な回顧展とすることができました。「会場芸術」の名のもとに意欲的な作品を次々に発表した龍子のまさに「規格外」な作品の数々が一堂に並ぶ、圧巻の展覧会場となりました。前年度、開館 25 周年記念でとりあげた島根ゆかりの日本画家・落合朗風が、龍子の設立した青龍社に参加したことにちなみ、当展会期にあわせて関連企画として落合朗風の特集展示をコレクション展示室１にて開催しました。

秋季には企画展「永田コレクションの全貌公開〈二章〉 北斎ー「葛飾北斎期」「戴斗期」編」を開催。北斎研究者・永田生慈氏より島根県へ寄贈された「永田コレクション」の全貌を公開する企画展のシリーズ〈二章〉で、北斎の「葛飾北斎期」と「戴斗期」（数え 46 歳から 60 歳頃）の作品を紹介する機会となりました。永田コレクションには「葛飾北斎期」約 450 件、「戴斗期」約 200 件の作品が収められていますが、本展ではそのうちの 483 件を展示。とくに北斎が当該期に傾注した読本（長編小説）と絵手本のほぼすべてを紹介し、その総数は 500 冊超となりました。本展で掲げた「前人未踏の版本世界！」「いざ圧巻の本の渦へ」というキャッチコピーに違わぬ大展覧会となりました。3 万人を超える多くの方に観覧いただき、なかでも小中学生の観覧が多かったことが特筆されます。

年末にはこの時期恒例の企画展「第 72 回 日本伝統工芸展」を開催。本展は工芸技術の保護育成を目的に、昭和 29 年より毎年開催されている公募展で、陶芸・染織・漆芸・金工・木竹工・人形・諸工芸の７部門にわたり、厳正な審査を通過した作品が全国 11 会場で展観されました。23 回目を迎える松江会場では、重要無形文化財保持者（人間国宝）の作品 41 点をはじめ、受賞作 16 点、地元山陰（島根県・鳥取県）在住作家の入選作 11 点を含む 270 点を展示。記念講演会には重要無形文化財「蒟漆」保持者の林曉氏をお迎えし、大学での漆芸教育の様子や、伝統的な手技に３Ｄプリンタなどの最新技術を合わせた制作の取り組みなど、たいへん興味深いお話しを伺うことができました。

3 月からは企画展「島根から世界へー 生誕 150 年 石橋和訓展」を開催。出雲市出身の洋画家・石橋和訓の生誕 150 年を記念し、公立美術館では初となる大規模な回顧展となりました。日本・イギリスと世界を股にかけ、主に肖像画家として活躍したこともあって、石橋の作品は各地に点在しており、これまでその画業の全貌を把握することは困難でありましたが、県立博物館以来、さまざまな研究者や学芸員たちが調査研究を続けてきたことに加え、近年、日英両国での調査研究が進み、その実像が明らかになりつつある好機でもありました。今回、生誕 150 年の記念すべき機会に日本各地はもとよりイギリスからも多くの作品を借用し、展示することが叶いました。開幕にあわせ、明治美術学会との共催により開幕記念シンポジウム「石橋和訓とその時代」を開催し、石橋研究の最前線の状況を踏まえ、20 世紀初頭の日英交流の時代性を振り返る機会といたしました。

なお今年度開催したすべての展示事業を 15 頁以降に掲載していますのでご参照ください。

調査研究

あらゆる美術館活動の基礎として調査研究は重要でありますが、特に学術的な成果発表のための刊行物が研究紀要になります。当館における研究紀要は、開館からおおむね20年を経た令和元年度に初めて発行することができました。これ以後、毎年１号ずつの刊行を続けており、令和７年度に第７号の発行にいたりました。地道なことではありますが、特にこの地域の美術史研究に資する役割を自覚して、今後も続けていく所存です。

この年度、発行した研究紀要第７号では、主任学芸員・五味俊晶による「落合朗風研究（二）《落合常一翁絵巻》に見る落合家の交流関係」を掲載しました。島根ゆかりの日本画家･落合朗風については、当館にて前年度、開館25周年を記念した大規模な回顧展を開催したところですが、その後も継続して調査研究･作品収集が進められています。本稿では朗風の父･落合常一の生涯について朗風自身がまとめた巻子装の作品を取り上げ、内容の翻刻及び註釈、さらには落合家の家族関係や宗教的背景、交友関係についても検討を加えることができました。落合朗風に関する基礎的研究として、着実な成果となりました。

教育普及

教育普及活動については例年どおり企画展等の事業に関連して、記念講演会や美術講座、ギャラリートーク、各種ワークショップ等を開催し、展示内容をより深く理解する機会、展示をきっかけにいっそう視野の広がる体験活動を重ねてまいりました。

また夏休み期間に開催する恒例事業として、島根大学教育学部美術教育専攻の３回生が受講する「美術科内容構成研究A･B（前期）」を通じて、本大学と連携した取り組みを長らく継続しています。春から開講される同授業では、美術館の成り立ちや事業、特に教育普及活動について学んだのち、夏休み期間に実施する造形体験ワークショップを美術館と大学と共同で企画し、学生が教材や当日の指導から運営にいたるまで活動の全行程を実践的に学習する機会となっています。25回目となる今年は「砂子でキラキラ★泡絵アートにチャレンジ」と題し、泡絵具と日本画の技法「砂子」を使ったアート作品の制作体験を実施。８月８日から３日間で、68名に参加いただきました。コレクション展（展示室１）で開催中の「落合朗風展」に連動して、日本画の技法を体験的に学ぶ機会にもなっています。

このほか大学との連携としては、島根県立大学の絵本の読み聞かせ活動「おはなしレストラン」を柚木沙弥郎展にあわせて当館で実施しました。また大学で学芸員資格取得に必要な博物館実習を８月18日から５日間にわたり開講し、６校15名の学生を受け入れました。

令和４年の再開館を機に、当美術館では子どもたちにとって美術の楽しさ、芸術の喜びを分かちあえる場所となるよう取り組みを続けており、毎日午前中を「かぞくの時間（こどもといっしょの鑑賞優先時間）」としています。今年度は287組、874名にご利用いただきました。またこの時間にあわせ、毎月第３木曜日に「絵本とおでかけ展示室」を開催。絵本のお話を聞いたあと、お話をヒントに作品鑑賞のお散歩に出かける活動を継続しています。年度を通じて33組、85名の子ども連れに参加いただきました。

なお今年度のすべての教育普及事業を22頁以降に掲載していますのでご参照ください。

北斎プロジェクト

当館は、津和野町出身の北斎研究者・永田生慈氏より寄贈された「永田コレクション」を核とする約1,600件の北斎作品を所蔵しています。この貴重なコレクションを守り伝え、地域の方々に親しみと誇りの念を抱いていただけるよう「島根県立美術館・北斎プロジェクト」事業を展開しています。今年度は先述した企画展「永田コレクションの全貌公開〈二章〉」の開催を中心に、さまざまな活動を実施しました。一つは本展の開催にあわせ、北斎の「葛飾北斎期」「戴斗期」（数え46〜60歳頃）の作品636件の図版と基本データを掲載した『永田生慈 北斎コレクション総目録〈2〉』を刊行することができました。またコレクション展（北斎展示室）では常時、北斎の版画作品や肉筆画約40件を紹介しており、今年度は第1期から第10期まで10回の展示替えを実施し、当館の北斎コレクションをご覧いただきました。なかでも本年開催の大阪・関西万博（Expo2025）にちなみ特集展示「北斎博覧会 珍品・逸品大集合‼」を企画し、世界で1点、または数点しか確認されていない希少な北斎作品・資料をご覧いただく機会としました。また大阪夢洲で開催された実際の「Expo2025 大阪・関西万博」の島根会場では北斎コレクションを紹介する掲示やワークショップを実施し、内外の方々にこのコレクションの魅力を広く周知することができました。

なお今年度の北斎プロジェクトの実施状況を27頁以降に掲載しています。

芸術活動の支援・育成

当館では県民の芸術活動を支援・育成するため、ギャラリーとホールを一般の利用に供しています。ギャラリーは主に美術に関する作品の発表・鑑賞の場として、ホールは主に美術に関する催事を通し、芸術文化を享受する場として位置づけています。今年度はギャラリーが97件の利用で65%の稼働率、入場者は72,974人を数えました。ホールは21件の利用で42%の稼働率となりました。

おわりに

当年8月6日には開館以来700万人目となる来館者を迎えることができました。当館は平成11年の開館から26年にわたり、県民の皆様をはじめ、県内外の方々に親しんでいただけるよう努めてまいりました。あらためてこの700万人という人数が、ご来館くださったお一人お一人の方々の総体ということを忘れず大切にしていきたいと考えています。とかく入館者数の多寡、ひいては収入金額の多寡のみをもって評価の価値とする皮相的な批判が少なからず見られます。このたび当館におきましては博物館法の改正を受け、美術館の設置理念に立ち返り、本来の役割を自覚したうえで、現状を振り返り、反省点を見出し、改善する方策を検討し、次の活動計画に反映させ、これを現実に実施していく、こうした意志的な美術館運営を目指して、誠実に取り組む所存です。広く皆様のご意見を賜れますと幸いです。

令和8年9月

島根県立美術館　館長　藤間　寛

運営の状況に関する評価

１．評価項目　（使命に関する評価）

1	美術館活動を通じた社会貢献	
目的	誰（何）を対象として	来館者、地域社会
	どういう状態を目指すのか	地域の美術活動の顕彰と継承を主たる役割と位置づけ、美術館活動を通じた社会貢献により、豊かな心を育成する。

２．KPI（重要業績評価指標）の状況

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7	単位
入館者数	目標値	20,000	250,000	250,000	250,000	250,000	人
	実績値	15,655	328,852	278,603	250,346	305,893	
	達成率	78.3	131.5	111.4	100.1	122.4	%
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実	観覧者数（コレクション展）87,292人 観覧者数（企画展）82,879人 参加者数（教育普及事業）14,450人 ※R3年度は改修工事のため長期休館（R3.5.25～R4.5.31）						

３．現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況		・年間を通じ、企画展・コレクション展が好評で来場者を多く得た。 ・特に「北斎〈二章〉」「北斎展示室」への誘客が功を奏した。 ・北斎プロジェクトによる一連の取り組みの成果が表れている。
課題分析	①課題	「目的」達成のため（または達成した状態を維持するため）に支障となっている点	・北斎プロジェクトの取り組みにより、外国人来館者が急激に増加 ・外国人観覧者数　[R6]2,785人→[R7]6,146人 ・一方で館内案内や展示解説等の外国語対応が不十分なため、満足度が伸びずツアーが打ち切りとなる、口コミ、リピーターにつながらない等の問題が顕著になる。
	②原因	上記①（課題）が発生している原因	・ホームページ、館内サイン・マップ、展示解説、作品キャプション・解説等、多言語対応が不十分。
	③方向性	上記②（原因）の解決・改善に向けた見直し等の方向性	・アクセス等の基本情報はもちろんのこと、美術館の楽しみ方、コレクションや展示の魅力なども多言語で伝わるようにする工夫が必要。 ・次期、中期重点目標（R9～13）の課題に位置づける。 ・対応策の検討、計画策定、予算確保、対応実施を着実に進める。

１．評価項目　　（中期重点目標に関する評価）

2	子どもの美術館利用を通じた育成	
目的	誰（何）を対象として	子ども、家族連れ
	どういう状態を目指すのか	芸術に触れる喜びやこの地に生きる誇りを育む。

２．KPI（重要業績評価指標）の状況

KPIの名称	年度	R3	R4	R5	R6	R7	単位
子どもを対象とした事業数（R4を基準）	目標値	―	78	78	78	78	件
	実績値	―	78	85	88	91	
	達成率	―	100.0	109.0	112.8	116.7	%
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実	各事業の参加者数 ・かぞくの時間･･･287件、計874人 ・絵本とおでかけ展示室･･･12回開催、計85人 ・夏休みアート体験･･･3日間5回、計68人						

３．現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況		・R4年度から重点事項として集中的に取り組んできた。 ・かぞくの時間、絵本とおでかけ展示室、しまね家庭の日、夏休みアート体験に加え、北斎プロジェクトによる取り組みが継続的に実施されている。 ・子ども連れで気楽に立ち寄れる場所というイメージの浸透は未だ不十分。
課題分析	①課題	「目的」達成のため（または達成した状態を維持するため）に支障となっている点	・安定的に機会が設けられている状態が維持されている。 ・イメージ形成につながる総合的な情報発信ができていない。
	②原因	上記①（課題）が発生している原因	・R4年度からの取り組みが軌道に乗り、仕組みが安定してきている。 ・情報発信の仕方については引きつづき工夫する必要がある。
	③方向性	上記②（原因）の解決・改善に向けた見直し等の方向性	・現行事業の継続を基本とし、各事業実施にあたり更なるブラッシュアップに努める。 ・情報発信の仕方については、イメージ形成につながる総合的な情報発信ができるよう、継続して取り組む必要がある。

中期重点目標（令和 9～13 年度）

１．前期の成果と課題（令和 4～8 年度）

令和 4 年の再開館に際し、重視した課題は次代の主役となる子どもたちの利用促進でした。少子高齢化のいっそう著しい島根県の課題とも通じるものです。毎週木曜日の午前中に設定していた「かぞくの時間」（こどもといっしょの鑑賞優先時間）を毎日午前中に拡大。毎月第３日曜日の「しまね家庭の日」にあわせ、造形ワークショップ「つくるたのしむアートスタジオ」をスタート。再開館後はじめてとなる企画展に「チームラボ　学ぶ!未来の遊園地と、花と共に生きる動物たち」を開催、家族連れを中心に 10 万人を超える観覧者を迎えました。令和５年７月からは毎月第 3 木曜日に「絵本とおでかけ展示室」を開催。キッズライブラリーでの絵本の読み聞かせと、コレクション展示室へのお散歩・美術鑑賞。こうした既存事業の拡充や新規事業の立ち上げにより、子どもたち・家族連れの美術館利用の機会が格段に増えました。

一方「運営の状況に関する評価」にも記したように、イメージ形成につながる総合的な情報発信の取り組みを引きつづき検討･強化していく必要が認められます。

２．今期の目標

「使命に関する評価」においてKPI としている入館者数 25 万人についてみても、再開館以後、堅調に推移しています。特にこの５年間、継続してきた北斎プロジェクトが奏功し、企画展「永田コレクションの全貌公開」の入場促進に留まらず、コレクション展への誘客、県内外からの観光ツアーによる来館、外国人観覧者の増加など、顕著な成果が表れ、全体を牽引しています。ただしこうした成果は必ずしもプラスの面ばかりを示してはいないようです。「評価」にも記したとおり、当館における全般的な多言語化の遅れが露わとなり、対策の必要性が喫緊の課題として見出されることとなりました。つぎの 5 年間においてはこうした課題への対応を着実に進めていくことが求められます。

また本中期計画の対象となる令和９年度から 13 年度の間、その中心に当館の開館 30 周年にあたる令和 11 年が含まれることも特筆されます。節目の年にふさわしい記念展等の事業はもちろんのこと、これまでの 30 年をふりかえり、これからの 30 年を見据えた美術館のあり方を示す機会としても捉えたいと考えます。

３．評価指標

外国人観覧者数（人）

４．年次計画

令 和 9 年 度　現状確認、ニーズの把握
令 和 10 年 度　改善計画の策定
令 和 11 年 度　改善対応①
令 和 12 年 度　改善対応②
令 和 13 年 度　改善対応③

令和７年度　実績

収集

購入

近世絵画

・三浦紫畹《牡丹に孔雀図》　紙本着色･六曲一隻･屏風　江戸時代後期（19 世紀）
・大島松溪《花鳥図》　紙本着色･六曲一隻･屏風　天保 15（1844）年頃

寄贈

近世絵画

・堀江友聲《龍図》　絹本墨画･一幅･掛軸　江戸時代後期（19 世紀）

日本画

・竹田霞村《雪梅鶺鴒図屏風》　紙本着色･二曲一隻･屏風　昭和 28（1953）年
・中山蕃《落合朗風追悼書》　紙本墨書･二幅･掛幅　昭和 12（1937）年
・木村棲雲《青緑山水図屏風》　絹本着色･六曲一隻･屏風　大正 6（1917）年
・木村棲雲《秋景山水図屏風》　絹本着色･六曲一隻･屏風　大正 7（1918）年

国内油彩等

・石橋和訓《アメリカ、ソルトレーク東岸》　油彩･カンヴァス･1 点･額装　大正 7（1918）年
・木村義男《出雲新市川》　油彩･カンヴァス･1 点･額装　大正 6（1917）年
・木村義男《門脇文吾肖像》　油彩･ボード･1 点･額装　大正 9（1920）年
・小泉清《裸婦》　布にろうけつ染め･1 点･額装　制作年不詳
・小泉清《裸婦》　ガラス絵･1 点･額装　制作年不詳
・小泉清《岩》　油彩･板に貼付した厚紙･1 点･額装　昭和 30～36（1955～61）年

水彩

・小泉清《裸婦》　水彩、パステル･紙　1 点　額装　制作年不詳

素描

・大国章夫《オーレの町》　パステル、インク・紙･1 点　額装　昭和 56（1981）年

工芸

・長岡空味《楽山焼　刷毛目茶碗》陶器･1 点･茶碗 明治～昭和時代（19 世紀末～20 世紀前半）
・濱田庄司《鉄絵湯呑》　陶器･1 点･湯呑　昭和 40～50 年代（1970 年頃）

彫刻

・加藤景雲《鯉大小游泳》　木･１点　昭和 18（1943）年

収蔵品数

作品総数　7,723 点

資料総数　2,197 点

内訳

西洋絵画	・・・	作品 42 点	
国内油彩	・・・	作品 264 点	資料 675 点
日本画	・・・	作品 493 点	資料 167 点
版画	・・・	作品 3,322 点	資料 186 点
水彩	・・・	作品 28 点	資料 2 点
素描	・・・	作品 177 点	資料 53 点
工芸	・・・	作品 486 点	資料 109 点
写真	・・・	作品 2,709 点	資料 499 点
彫刻	・・・	作品 88 点	資料 106 点
書跡	・・・	作品 20 点	資料 1 点
デザイン	・・・	作品 94 点	資料 399 点

展示

コレクション展

展示室１〈水辺の展示室〉

・第１期　５月 14 日（水）～6 月 30 日（月）
・第２期　７月２日（水）～8 月 18 日（月）
・第３期　８月 20 日（水）～9 月 29 日（月）
・第４期　10 月１日（水）～11 月 17 日（月）
・第５期　11 月 19 日（水）～1 月 12 日（月・祝）
・第６期　１月 14 日（水）～2 月 23 日（月・祝）
・第７期　２月 25 日（水）～4 月 13 日（月）

展示室１〈近世絵画・日本画〉

・第１期　５月 14 日（水）～6 月 30 日（月）
・第２期　特集:落合朗風　７月２日（水）～8 月 18 日（月）
・第３期　８月 20 日（水）～9 月 29 日（月）
・第４期　10 月１日（水）～11 月 17 日（月）
・第５期　11 月 19 日（水）～1 月 12 日（月・祝）
・第６期　１月 14 日（水）～2 月 23 日（月・祝）
・第７期　２月 25 日（水）～4 月 13 日（月）

展示室１〈西洋絵画・洋画〉

・第１期　５月 14 日（水）～9 月 29 日（月）
・第２期　特集：小泉清 小泉八雲とセツの三男として生まれて 10 月１日（水）～4 月 13 日（月）

展示室２〈北斎展示室〉

・第１期　特集展示「北斎博覧会」４月 23 日（水）～5 月 26 日（月）
・第２期　５月 28 日（水）～6 月 30 日（月）
・第３期　特集展示「夏休み浮世絵観察会」７月２日（水）～8 月４日（月）
・第４期　８月６日（水）～9 月８日（月）
・第５期　９月 10 日（水）～10 月 13 日（月・祝）
・第６期　10 月 15 日（水）～11 月 17 日（月）
・第７期　11 月 19 日（水）～12 月 27 日（土）
・第８期　１月２日（金）～2 月２日（月）
・第９期　２月４日（水）～3 月９日（月）
・第 10 期　３月 11 日（水）～4 月 13 日（月）

展示室３〈工芸〉

・島根の漆芸　７月２日（水）～8 月 18 日（月）

・コレクションに見るいろいろな焼物　8 月 20 日（水）～1 月 12 日（月･祝）
・島根の工芸　石見長浜焼･長浜人形　1 月 15 日（木）～3 月 9 日（月）
・茶の湯の工芸　3 月 12 日（木）～4 月 27 日（月）

展示室４〈写真〉
・結成 70 周年記念　奈良原一高《無国籍地》と「グループ“実在者”」の仲間たち　4 月 17 日（木）～7 月 14 日（月）
・ロバート･フランク／ウィリアム・クライン／森山大道　7 月 17 日(木)～10 月 13 日(月･祝)
・フランス 19 世紀の写真　10 月 16 日（木）～1 月 5 日（月）
・100 年前の塩谷定好　1 月 8 日（木）～4 月 13 日（月）

展示室５〈彫刻・小企画〉
・川端龍子展［第 2 会場］　7 月 18 日（金）～8 月 25 日（月）
・澄川喜一　8 月 28 日（木）～11 月 24 日（月･振休）
・島根の木彫　11 月 27 日（木）～1 月 26 日（月）
・彫刻と素材　1 月 29 日（木）～4 月 20 日（月）

企画展
柚木沙弥郎　永遠のいま
会期：4 月 18 日（金）～6 月 16 日（月）
主催：島根県立美術館、NHK 松江放送局、NHK エンタープライズ中国、TSK さんいん中央テレビ、山陰中央新報社、SPS しまねグループ
後援：朝日新聞松江総局、毎日新聞松江支局、読売新聞松江支局、産経新聞社、中国新聞社、新日本海新聞社、島根日日新聞社、BSS 山陰放送、日本海テレビ、エフエム山陰、山陰ケーブルビジョン
制作協力：NHK プロモーション
会場：企画展示室
観覧者数：22,116 人（開催日数 54 日）

誕生 140 周年　川端龍子展
会期：7 月 18 日（金）～年 8 月 25 日（月）
主催：島根県立美術館、日本海テレビ、山陰中央新報社、SPS しまねグループ
後援：朝日新聞松江総局、毎日新聞松江支局、読売新聞松江支局、産経新聞社、中国新聞社、新日本海新聞社、島根日日新聞社、NHK 松江放送局、TSK さんいん中央テレビ、BSS 山陰放送、エフエム山陰、山陰ケーブルビジョン
特別協力：大田区立龍子記念館
企画協力：株式会社アートワン
会場：企画展示室、展示室 5
観覧者数：10,601 人（開催日数 34 日）

永田コレクションの全貌公開〈二章〉　北斎−「葛飾北斎期」「戴斗期」編

会期：9 月 12 日（金）～11 月 3 日（月・祝）
※当初 9 月 10 日開幕予定のところ、設備不良により 9 月 12 日に延期。
主催：島根県立美術館、TSK さんいん中央テレビ、NHK 松江放送局、日本経済新聞社、山陰中央新報社、SPS しまねグループ
後援：朝日新聞松江総局、毎日新聞松江支局、読売新聞松江支局、産経新聞社、中国新聞社、新日本海新聞社、島根日日新聞社、BSS 山陰放送、日本海テレビ、エフエム山陰、山陰ケーブルビジョン
会場：企画展示室
観覧者数：30,735 人（開催日数 46 日）

第 72 回　日本伝統工芸展

会期：12 月 3 日（水）～ 12 月 24 日（水）
主催：島根県、島根県立美術館、島根県教育委員会、NHK 松江放送局、朝日新聞社、山陰中央新報社、公益社団法人日本工芸会、SPS しまねグループ
助成：令和 7 年度文化庁補助事業
後援：鳥取県、鳥取県教育委員会、公益財団法人しまね産業振興財団、公益財団法人しまね文化振興財団
会場：企画展示室
観覧者数：7,781 人（開催日数 22 日）

島根から世界へ　生誕 150 年　石橋和訓展

会期：3 月 6 日（金）～6 月 8 日（月）
主催：島根県立美術館、日本海テレビ、山陰中央新報社、SPS しまねグループ
後援：出雲市、出雲市教育委員会、朝日新聞松江総局、毎日新聞松江支局、読売新聞松江支局、産経新聞社、中国新聞社、新日本海新聞社、島根日日新聞社、NHK 松江放送局、TSK さんいん中央テレビ、BSS 山陰放送、エフエム山陰、山陰ケーブルビジョン
会場：企画展示室
観覧者数：17,931 人（開催日数 83 日）

貸出

出雲文化伝承館「没後 70 年　竹田霞村展」

貸出期間：8 月 23 日～11 月 3 日

・竹田霞村《老杉図》
・竹田霞村《雁来紅》
・竹田霞村《武蔵野之景》

島根県立石見美術館・国立新美術館「生誕 100 年　森英恵　ヴァイタル・タイプ」

貸出期間：8 月 28 日～令和 8 年 7 月末

・奈良原一高《森英恵ファッション・デザイナー:’82 世界ベスト５コレクション、レセプション〈肖像の風景〉より》
・奈良原一高《森英恵ファッション・デザイナー:「ハナエ・モリ」ビルのショーウィンドー〈肖像の風景〉より》
・奈良原一高《森英恵ファッション・デザイナー:「ハナエ・モリ」ビル内の仕事場で〈肖像の風景〉より》
・奈良原一高《森英恵ファッション・デザイナー:「ハナエ・モリ」ビル内の仕事場で〈肖像の風景〉より》
・奈良原一高《森英恵ファッション・デザイナー:表参道を夫君の森賢氏と散策する〈肖像の風景〉より》
・勝井三雄/奈良原一高/森英恵/平田暁夫《Fujibo カレンダー1967 年　1・2 月》
・勝井三雄/奈良原一高/森英恵/平田暁夫《Fujibo カレンダー1967 年　3・4 月》
・勝井三雄/奈良原一高/森英恵/平田暁夫《Fujibo カレンダー1967 年　5・6 月》
・勝井三雄/奈良原一高/森英恵/平田暁夫《Fujibo カレンダー1967 年　7・8 月》
・DVD 資料　『奈良原一高/田中一光/成島東一郎《ザ・ワールド・オブ・ハナエモリ》』
・雑誌資料　『Photo Art』1959 年 12 月号
・雑誌資料　『婦人公論』1962 年 5 月号
・雑誌資料　『婦人公論』1962 年 6 月号
・雑誌資料　『婦人公論』1962 年 8 月号

宇都宮美術館・三重県立美術館「信仰の光と理性の光　フランス近代の宗教と脱宗教」

貸出期間：10 月 1 日～令和 8 年 3 月 29 日

・ジャンポール・ローランス《サロンロボー（パリ市庁舎）壁画習作》
・ピエール・ピュヴィス・ド・シャヴァンヌ《聖ジュヌヴィエーヴの幼少期》
・リュック＝オリヴィエ・メルソン《エジプト逃避途上の休息》

みさと館（美郷町教育委員会）「中原芳煙と田平玉華展～早世した２人の天才画家の思い～」

貸出期間：10 月 28 日～11 月 25 日

・中原芳煙《虎図》寄託作品

・中原芳煙《鹿図》寄託作品
・中原芳煙《群鹿之図》寄託作品
・中原芳煙《冨嶽之図》寄託作品

ひろしま美術館「白の秘密」

貸出期間：11 月 18 日～令和 8 年 4 月 14 日
・アレクサンドル・カバネル《若い女性の肖像》
・ラファエル・コラン《エリーズ嬢の肖像》
・ポール・シニャック《ロッテルダム、蒸気》
・松村景文《渓流図》

図録・研究紀要

『柚木沙弥郎　永遠のいま』

監修：水沢勉（美術史家）
執筆：柚木廉平
　　丸山祐子
　　水沢勉
　　武藤美紀（松本市美術館）
　　盛本直美（岩手県立美術館）
　　廣瀬就久（岡山県立美術館）
　　山本麻代（島根県立美術館）
　　山本香瑞子（静岡市美術館）
　　福島直（東京オペラシティ　アートギャラリー）
翻訳：クリストファー・スティヴンズ
デザイン：柿木原政広（10inc.）
　　佐々木在（10inc.）
編集：盆子原明美
　　日下部行洋（平凡社）
　　山本怜央（平凡社）
特別協力：柚木廉平
令和６年10月16日　初版第１刷発行
発行者：下中順平
発行所：株式会社平凡社
印刷所：株式会社東京印書館
製本所：大口製本印刷株式会社

『川端龍子展』

編集：五味俊晶（島根県立美術館）
　　株式会社アートワン
寄稿：木村拓也（大田区立龍子記念館）
執筆：加藤俊明（岩手県立美術館）
　　五味俊晶（島根県立美術館）
　　田邉咲智（碧南市藤井達吉現代美術館）
　　丸山多美子（富山県水墨美術館）
翻訳：アンナ・ボルジロフスカヤ
デザイン：坂本佳子（大向デザイン事務所）
印刷：日本写真印刷コミュニケーションズ株式会社
発行：株式会社アートワン

『永田生慈　北斎コレクション総目録〈2〉―「葛飾北斎期」「戴斗期」編』

令和７年９月 10 日発行
編集･発行：島根県立美術館
和文英訳（p3. 5. 7. 9. 10. 15. 125）：ルース・S・マクレリー（有限会社ザ・ワード・ワークス）
アートディレクション：野村勝久（株式会社野村デザイン制作室）
デザイン・制作：野村勝久（株式会社野村デザイン制作室）
仲澤浩輝（株式会社サンニチ印刷）
折井淳平（株式会社サンニチ印刷）
中野浩一（株式会社サンニチ印刷）
印刷・製本：株式会社サンニチ印刷

『島根から世界へ―　生誕 150 年　石橋和訓展』

編集：柳原一徳（島根県立美術館）
編集補助：西川瞭（島根県立美術館）
野津尚子（島根県立美術館）
飯島久美子（島根県立美術館）
執筆：林みちこ（筑波大学）
ロジーナ・バックランド（大英博物館）
藤崎綾（広島県立美術館）
柳原一徳
西川瞭
デザイン：野津敏靖（野津デザイン事務所）
印刷・製本：島根印刷株式会社
令和８年３月６日発行
発行：島根県立美術館

『島根県立美術館研究紀要』第７号

令和８年３月 31 日
編集･発行：島根県立美術館
収録論文：五味俊晶「落合朗風研究（二）《落合常一翁絵巻》に見る落合家の交流関係」

教育普及

※敬称略。所属・肩書は実施当時のもの。

講演会　　4事業5回　509人

・柚木沙弥郎　演題「柚木沙弥郎、紡ぎだす色と形の無限世界―染めて、描いて、切って、貼って、教えて、創る」　講師：降旗千賀子（元目黒区美術館学芸係長 &4＋do キュレーター）5月25日　126人
・川端龍子展　演題「日本画家・川端龍子の会場芸術」　講師：木村拓也（大田区立龍子記念館副館長兼学芸員）7月19日　70人
・北斎〈二章〉　①演題「江戸後期の読本―文と絵が語る文学世界―」　講師：田中則雄（島根大学法文学部 教授）9月21日　110名　②演題「絵手本にみる北斎の魅力」　講師：根岸美佳（すみだ北斎美術館 学芸員）10月18日　125人
・日本伝統工芸展　演題「工芸と美術　伝統と革新技術の融合」　講師：林曉（漆芸作家　重要無形文化財「髹漆」保持者）12月13日　78人

シンポジウム　　1事業1回　80人

・石橋和訓展　「石橋和訓とその時代」　司会：宮下規久朗（神戸大学教授）　登壇者：ロジーナ・バックランド（大英博物館日本コレクション 朝日新聞キュレーター）/ 藤崎綾（広島県立美術館主任学芸員）/ 林みちこ（筑波大学准教授　本展学術協力者）/ 柳原一徳（当館専門学芸員　本展担当）3月7日　80人（別有オンライン参加者）

美術講座　　2事業2回　105人

・川端龍子展　演題「川端龍子と落合朗風」講師：五味俊晶（当館主任学芸員）8月10日　60人
・小泉清展　演題「小泉八雲とセツの三男・小泉清の画業と人生」講師：柳原一徳（当館専門学芸員）10月5日　45人

企画展ギャラリートーク（スライドトーク）　　5事業17回　1,410人

・柚木沙弥郎　オープニングギャラリートーク　学芸員による作品解説　4月18日　90人
・柚木沙弥郎　ギャラリートーク　学芸員による作品解説　4月26日、5月31日　143人
・川端龍子展　オープニングギャラリートーク　講師：木村拓也（大田区立龍子記念館 副館長兼学芸員）7月18日　103人
・川端龍子展　ギャラリートーク　学芸員による作品解説　7月27日、8月16日　136人
・北斎〈二章〉オープニングギャラリートーク　学芸員による作品解説　9月20日　113人
・北斎〈二章〉スライドトーク　学芸員による作品解説　9月27日、10月13日　282人
・日本伝統工芸展　出品作家による各部門の展示作品解説
　満丸正人（人形　鑑査委員）12月6日　48人
　三浦信一（木竹工　鑑査委員）12月7日　52人
　林曉（漆芸　重要無形文化財「髹漆」保持者）12月13日　92人

内田和秀（陶芸　出品作家）12 月 14 日　74 人
海老ヶ瀬順子（染織　鑑査委員）12 月 20 日　62 人
粟根仁志（諸工芸　鑑査委員）12 月 21 日　64 人
・石橋和訓展　オープニングギャラリートーク　講師：林みちこ（筑波大学准教授　本展学術協力者）と当館担当学芸員による作品解説　3 月 6 日　130 人
・石橋和訓展　スライドトーク　学芸員による作品解説　3 月 28 日　21 人

鑑賞補助　鑑賞ガイド等　　4 事業
・北斎〈二章〉こどもガイド『今年の秋は北斎ブックワールドに行ってみよう！』
・北斎〈二章〉鑑賞ガイド『北斎物知双六　前期編・後期編』
・石見長浜焼・長浜人形　小冊子『石見長浜焼・長浜人形』
・石橋和訓展　『石橋和訓展をもっと楽しむための鑑賞ガイド』

参加型コーナーの設置　　1 事業 1 回　3,320 人
・北斎〈二章〉　福引券の配布　前期配付枚数 13,477 枚　後期福引参加人数 3,320 枚
・石橋和訓展　フォトコーナー　3 月 6 日～　会期中

創作活動ほか　　5 事業 50 回　5,667 人（うち北斎プロジェクト分 1 事業 30 回　5,072 人）
・柚木沙弥郎　ワークショップ「作って鳴らす色と形の音楽団」4 月 20 日　13 人
・柚木沙弥郎　ワークショップ「型から作って染める、きんちゃく作り」５月 10 日　14 人
・柚木沙弥郎　島根県立大学 出張おはなしレストラン　5 月 17 日　18 人
・夏休みアート体験 2025　ワークショップ「砂子でキラキラ★泡絵アートにチャレンジ」　企画協力：島根大学教育学部美術科教育専攻　8 月 8 日～10 日（3 日間５回）　68 人
・北斎〈二章〉　浮世絵摺り実演　実演：芸艸堂　9 月 23 日（2 回）350 人
・北斎〈二章〉　ワークショップ『北斎漫画』ミニ摺体験　10 月 25 日（4 回）、26 日（4 回）85 名
・日本伝統工芸展　鑑賞バス　12 月 10 日　仁摩小学校　25 人
・日本伝統工芸展　「伝統工芸―高校生体験・鑑賞コース」（高校生講座）（木竹工）　講師：村山創達（木工作家）12 月 12 日　島根中央高校、益田高校、浜田水産高校、3 校 19 人　引率 3 人

・北斎プロジェクト館内外活動（缶バッジ・ペーパーバック作り、ミニ摺体験ほか）
6 月 15 日　缶バッジ作り　336 人
6 月 21 日　缶バッジ・マグネット作り　192 人
6 月 22 日　缶バッジ・マグネット作り　203 人
7 月 12 日　ペーパーバック作り　152 人
7 月 13 日　ペーパーバック作り　163 人
7 月 25 日　缶バッジ・マグネット作り　76 人
7 月 30 日　缶バッジ・マグネット作り　110 人
8 月 23 日　缶バッジ作り　166 人

9月27日　缶バッジ・マグネット作り　181人
10月11日　缶バッジ・マグネット作り　155人
10月12日　缶バッジ・マグネット作り　202人
1月10日～12日　ミニ摺り体験　297人
1月16日～18日　ペーパーバック作り　1,250人
1月24日・25日　ミニ摺り体験　235人
2月11日・14日・15日　ミニ摺り体験　309人
2月7日　缶バッジ・マグネット作り　199人（2月8日開催予定も大雪のため中止）
2月22日　缶バッジ・マグネット作り　211人
2月21日～23日　ミニ摺り体験　368人
2月28日・3月1日　ミニ摺り体験　211人
3月26日　缶バッジ・マグネット作り　56人

映画上映会　　5作品12回　793人

・美術館キネマ「リーチ・ポタリー1952」①　4月27日（2回）130人
・美術館キネマ「リーチ・ポタリー1952」②　5月11日（2回）142人
・美術館キネマ「天心」　7月26日（2回）107人
・美術館キネマ「八犬伝」　9月14日（2回）245人
・美術館キネマ「ソング・オブ・ザ・シー　海のうた」　11月16日（2回）58人
・美術館キネマ「劇場版 ダウントン・アビー」　3月21日（2回）111人

コンサート等　　3事業8回　1,607人

・柚木沙弥郎　展示室即興演奏会　4月19日（2回）229人
・北斎〈二章〉ロビーコンサート「ツィンバロンと津軽三味線で奏でる“北斎”の世界」10月12日（2回）　518人
・北斎〈二章〉ロビーコンサート「北斎とフランス印象派音楽」11月2日、3日　497人
・クリスマスコンサート　出演：松江プラバ少年少女合唱隊　12月20日（2回）　363人

その他の活動　子育て支援　　2事業　959人

・かぞくの時間　休館日を除く毎日10:00～12:00に「こどもといっしょの鑑賞優先時間」を実施
利用者数　件数287件　合計874人（一般 447人、大学生 3人、小中高校生 198人、未就学児 226人）
・絵本とおでかけ展示室　作品鑑賞：山本麻代（当館主任学芸員）、読み聞かせ：SPSしまねスタッフ
4月17日　合計2人（家族数1組、未就学児1人、大人1人）
5月15日　合計5人（家族数2組、未就学児2人、大人3人）
6月19日　合計11人（家族数5組、未就学児5人、大人6人）
7月17日　合計5人（家族数2組、未就学児3人、大人2人）
8月21日　合計17人（家族数6組、未就学児7人、小学生3人、大人7人）

9月18日　合計6人（家族数2組、未就学児2人、大人4人）
10月16日　合計4人（家族数2組、未就学児2人、大人2人）
11月20日　合計8人（家族数3組、未就学児5人、大人3人）
12月18日　合計3人（家族数1組、未就学児2人、大人1人）
1月15日　合計2人（家族数1組、未就学児1人、大人1人）
2月19日　合計8人（家族数3組、未就学児4人、大人4人）
3月19日　合計14人（家族数5組、未就学児6人、大人8人）

その他の活動　学校等教育機関

・学校団体鑑賞作品解説（※来場数は75校 1,427人）18 校（523人）※北斎鑑賞バスは別途
・来館時対応　美術館の役割・学芸員の仕事解説等　2校（4人）
・北斎鑑賞バス
7月31日　松江市立湖北中学校美術部　参加人数12人（生徒11人 教員1人）
9月1日　島根県立飯南高校美術部　参加人数5人（生徒4人 教員1人）
9月12日　大田市立大森小学校　参加人数45人（児童35人 教員10人）
9月18日　雲南市立大東中学校　参加人数17人（生徒12人 教員5人）
10月9日　安来市立母里小学校　参加人数34人（児童29人 教員5人）
10月10日　大田市立鳥井小学校　参加人数49人（児童41人 教員8人）
10月15日　大田市教育センターあすなろ教室　参加人数10人
12月10日　大田市立仁摩小学校　参加人数25人
・学芸員実習　学芸員資格取得のための実習　8月18日～22日　6校（15人）
・講義　島根大学教育学部非常勤講師「芸術学基礎概説」　講師：河野克彦（当館専門学芸員）令和7年度前期
・講義　島根大学教育学部非常勤講師「美術理論概説」　講師：柳原一徳（当館専門学芸員）令和7年度後期
・図工･美術研修会（主催：島根大学教育学部附属義務教育学校　共催：島根大学教育学部美術科教育専攻･島根県立美術館）講義および夏休みアート体験「砂子でキラキラ★泡絵アートにチャレンジ」参加･参観･グループワーク　対象：山陰両県･県外の小中高等学校教諭　8月9日　12人

その他の活動　一般

・一般団体鑑賞作品解説（※来場数は 342団体／ 8,672人）　16団体（281人）
・第69回鳥取県美術展覧会洋画部門審査及び講評執筆　柳原一徳（当館専門学芸員）9月3日
・出雲文化伝承館講演会「失われゆく霞村を求めて」五味俊晶（当館主任学芸員）9月28日
・ながさきピース文化祭「特別展　雲仙ゆかりの画家」展示監修及び講演会　講師：五味俊晶（当館主任学芸員）展覧会監修（9月）〈栗原玉葉トークイベント〉10月1日
・東京文化財研究所オープンレクチャー「かたちを見る、かたちを読む」講座〈画僧 風外本高の絵画制作〉講師　藤岡奈緒美（当館学芸員）11月13日

・全国美術館会議　第 20 回地域美術研究部会会合（会場：島根県立美術館ホール）「石橋和訓展」及び「落合朗風展」に関する発表　講師：柳原一徳（当館専門学芸員）、五味俊晶（当館専門学芸員）3 月 13 日

北斎プロジェクト

当館は、津和野町出身の北斎研究者・永田生慈氏（1951-2018）より寄贈された「永田コレクション」を核とした、約 1,600 件の北斎作品を所蔵しています。現在、当館ではこの貴重なコレクションを守り伝え、地域の方々に親しみと誇りの念を抱いていただけるよう、「島根県立美術館・北斎プロジェクト」事業を展開しています。本事業は〈作品とその価値を守る〉・〈魅力と価値を伝える〉・〈本物と出会う感動を〉・〈楽しむ体験から親しみへ〉の４つの目的別に全15の活動（以下①～⑮）から成ります。（※本事業は島根県が推進する「島根創生計画」の一つに位置づけられています[事業名「浮世絵コレクション活用事業」]）

〈作品とその価値を守る〉　作品を物理的に守ることはもちろん、コレクションの価値を守る活動

①保存環境の維持／②作品の修復

・空気環境調査の定期実施（パッシブインジケーター）。
・適切な作品展示のためのブックマットの新調。
・版本展示用の中性ボードの作成（440 枚）。

③高精細画像の撮影

・作品保存の観点からの現状記録、データベースでの公開、作品調査、出版物への掲載等に用いるための作品撮影。令和７年度は北斎の版本を中心に行い、約 50 件・3,200 カットを撮影。

④データベースの整備

・令和 7 年度企画展「永田コレクションの全貌公開〈二章〉北斎－「葛飾北斎期」「戴斗期」編」のためのデータベース整備
・美術館 HP「収蔵品データベース」への「葛飾北斎期」「戴斗期」作品データ（下記『総目録』掲載データ）のアップ

⑤『永田生慈 北斎コレクション総目録』の作成

・『永田生慈 北斎コレクション総目録〈2〉－「葛飾北斎期」「戴斗期」編』刊行。全４巻の内の「2 巻」で、北斎の「葛飾北斎期」と「戴斗期」（数え 46～60 歳頃）の作品 636 件の図版と基本データを掲載。

〈魅力と価値を伝える〉　多くの方にコレクションの魅力や価値をお届けする活動

⑥特設サイト「島根県立美術館の浮世絵コレクション」等の整備

・「永田コレクションの全貌公開〈二章〉」展・特設サイトの拡充。
・特設サイト等デジタル広告動画の作成。

⑦こども向けガイド『北斎のおはなし』無料配布

・「永田コレクションの全貌公開〈二章〉」展の内容を分かりやすく、楽しく紹介する「こども向けチラシ」を作成し県東部の小学生へ配布。

⑧講演会
・「永田コレクションの全貌公開〈二章〉」展時にスライドトークを行ったほか、団体ツアー客向けの講座（8 団体・計 150 人）、通訳士向け講演会などを実施。

⑨県内外への発信（※SPS しまね委託業務含）
・北斎ラッピングバスの運行（継続）。
・新聞、雑誌での広告掲載（継続）。
・出雲空港での電照広告設置。
・「大阪・関西万博」島根会場での広報ブース設置。
・旅行ツアー商談会への参加（15 回）
→ツアー実績（372 件・計 9,960 人［前年比 211％］）

〈本物と出会う感動を〉　実際に作品をご覧いただくための活動
⑩企画展
・「永田コレクションの全貌公開〈二章〉北斎ー「葛飾北斎期」「戴斗期」編」開催（9/10～11/3）。
・観覧者数は 30,735 人（目標 30,000 人）。
・北斎が当該期に手がけた読本と絵手本について細大漏らさず展示。
・希少な初摺本だけではなく、後摺本・改題本・色摺本・模刻本なども並べて展示し、研究者が集成した「永田コレクション」の特質を紹介。

⑪コレクション展（「北斎展示室」）での展示
・常時北斎の版画作品や肉筆画約 40 件を紹介する世界でも数少ない展示室。令和７年度は第 1 期から第 10 期まで、10 回の展示替えを実施。
・第 1 期で特集展示「北斎博覧会　珍品･逸品大集合‼」開催。世界で一点や数点しか確認されていない希少な北斎作品・資料を展示。
・第 3 期、第 4 期は「夏休み・浮世絵観察会」として、浮世絵キャラクターによる子供向け解説パネルを設置。

⑫美術鑑賞バス（※SPS しまね委託業務）
・県内の小中高等学校を対象とした北斎作品の観覧事業（無料送迎バス手配）。浮世絵や北斎作品に親しむための特別なプログラムを実施。（7/31、9/1、9/12、9/18、10/9、10/10、10/15、12/10　計 8 校／計 197 人参加）

〈楽しむ体験から親しみへ〉　様々な楽しい体験を通して、コレクションに親しんでいただく活動
⑬北斎コレクション出張ワークショップ（※SPS しまね委託業務）
・制作体験と併せて当館北斎コレクションに関するガイドを配布。
・県内では夏休みの放課後児童クラブ、商業施設、文化施設、まつえ土曜夜市やミズベリング等のイベント時に開催。（計 2,189 人参加）

・県外では日比谷しまね館、広島での「しまねふるさとフェア」などで開催。（計 1,565 人参加）
・「大阪・関西万博」島根会場でのワークショップ開催。（計 576 人参加）

【（新規）館内ワークショップ】（※SPS しまね委託業務）
・『北斎漫画』ミニ摺り体験（13 回開催／計 1,420 人参加）
3 枚の板木を摺り重ねて『北斎漫画』の図柄を完成させるワークショップ。板木（復刻板木）は本物の山桜で、浮世絵版画の制作過程を体験。体験後に 2 階で展示されている本物の『北斎漫画』を鑑賞いただいた。

⑭AR フォト「北斎ガチャ」（※SPS しまね委託業務）
・館内ロビーやイベント会場で、スマートフォンを使って北斎作品の AR フォトフレームの記念撮影を楽しめるサービス。
・「永田コレクションの全貌公開〈二章〉」展に合わせて新フレームを作成。

⑮オリジナル北斎グッズ
・県内企業とコラボしオリジナルグッズ（T シャツ、各種シール、バッグ、スマホステッカー、御朱印帳など）を開発。ショップにて販売（継続）。

利用状況

１．入館者数

305,893 人（開館日数 313 日、1 日平均 977 人）

２．展覧会別入場者数

（1）コレクション展観覧者数　総計 87,292 人

（2）企画展観覧者数　総計 82,879 人

柚木沙弥郎　永遠のいま

会期：4 月 18 日（金）～6 月 16 日（月）

観覧者数：22,116 人（開催日数 54 日）

誕生 140 周年　川端龍子展

会期：7 月 18 日（金）～年 8 月 25 日（月）

観覧者数：10,601 人（開催日数 34 日）

永田コレクションの全貌公開〈二章〉　北斎−「葛飾北斎期」「戴斗期」編

会期：9 月 12 日（金）～11 月 3 日（月・祝）

観覧者数：30,735 人（開催日数 46 日）

第 58 回　島根県総合美術館（県展）

会期：11 月 15 日（土）～11 月 23 日（日・祝）

観覧者数：6,648 人（開催日数 8 日）

第 72 回　日本伝統工芸展

会期：12 月 3 日（水）　～ 12 月 24 日（水）

観覧者数：7,781 人（開催日数 22 日）

島根から世界へ　生誕 150 年　石橋和訓展

会期：3 月 6 日（金）～6 月 8 日（月）

観覧者数：17,931 人（開催日数 83 日）うち令和 7 年度分 4,998 人（開催日数 22 日）

３．教育普及事業参加者数

14,450 人

４．ミュージアムパスポート会員

3,748 人（令和 8 年 3 月 31 日現在）

５．デジタル広報

① ホームページアクセス数　約220,000回（令和７年度累計）
② Ｘフォロワー数　4,237人（令和８年３月31日現在）
③ Facebookフォロワー数　7,002人（令和８年３月31日現在）
④ Instagramフォロワー数　6,610人（令和８年３月31日現在）

６．ギャラリー及びホールの利用状況

（１）ギャラリー

ギャラリー１　37件（稼働率74％）
ギャラリー２　34件（稼働率68％）
ギャラリー３　26件（稼働率52％）
ギャラリー計　97件（稼働率65％）
　入場者数計　72,974人

（２）ホール

ホール　　21件（稼働率42％）

令和 7 年度 島根県立美術館 年次報告書
令和 8 年 9 月 30 日
編集・発行：島根県立美術館 ©2026
〒690-0049　島根県松江市袖師町 1-5
TEL：0852-55-4700